



企業編

由布合成化学株式会社 大分工場

武蔵町糸原756番地

開業：昭和56年
従業員：200名



創業者の故藤原強さんは、昭和38年に、東京都で園芸用品のプラスチック製品を製造する由布合成化学株式会社を設立しました。その後、健康器具に関する部品を製造するようになり、そこで磨いた金型の成形技術を基に、電子部品の製造をするようになりました。昭和40年代に入り、大手電子機器メーカーと複写機などのセンサー用の電子部品の取引が始まり、事業が順調に拡大。今までの工場では生産が間に合わなくなり、昭和56年に地元の武蔵町に大分工場を設立しました。当初、大分工場は、トランジスタやセンサーなどの電子部品を生産していましたが、組立作業も依頼される様になり、工場を増設していききました。そして、

平成に年号が変わった頃には、由布合成化学の約95%を生産する主力工場となりました。その後、LED用のパッケージなど電子部品の生産と組立作業をする種類を増やしていき、業績を伸ばしていききました。平成10年以降、電子部品業界の生産拠点が、中国などの海外に移ったため、由布合成化学も大量生産する電子部品や人手を要する簡易な組立作業は海外工場を設立し、生産移管しました。そして、全体の生産量は、国内が6割で海外が4割となりましたが、依然として国内での主力生産工場としての役割を担ってきました。現在、大分工場が生産しているのは、ハイブリット車のエンジンに使われる電流センサーなど高度な技術を要する自動車用センサーの電子部品とその部品の組立作業などです。

今後は、取引先の大手電子機器メーカーがさらに自動車分野に進出していき、自動運転装置など最新の電子機器の生産が求められます。しかし、これまでチャレンジ精神で培ってきた経験と技術で、どんな困難な要望にも応え、同時に地元雇用を積極的にに行い地域振興に貢献したいと考えています。



第一次産業編

阿部悦男さん 光子さん

安岐町山口3709

平成17年からしいたけ栽培に取り組む



阿部悦男さんは、安岐町で昭和49年からプレジャーボートの製造や販売をする会社を共同経営していました。平成15年に大手プレジャーボートメーカーに譲渡しました。そして、安岐町山口の実家で、しいたけ栽培に取り組むことにしました。まず、大分しいたけ源平塾(場所・豊後大野市)に通って、しいたけ栽培の知識を学びました。同時に、近所の方から山を買って、ホダ場の整備とホダ木作りなどの準備を進めていきました。そして、平成17年から林内ホダ場と人工ホダ場の2種類のホダ場でしいたけ栽培に取り組みました。初年度の収穫は期待していませんでしたが、約1トンの乾しいたけを生産することが

できました。また、その頃は乾しいたけの単価も良かったので、経営を軌道に乗せることができました。その後も順調に林内ホダ場10、000㎡、人工ホダ場1、000㎡、ハウス3棟で500㎡と拡大していきました。妻の光子さんと一緒に高品質のしいたけ作りを注いだ結果、大分県乾椎茸品評会で、平成27年から箱物の部で3年連続優等賞を獲得。特に平成29年は「この部」で県内最高賞の農林水産大臣賞を獲得し、全国乾椎茸品評会でも「この部」で2番目の賞である林野庁長官賞を獲得しました。

光子さんは、「一昨年に悦男さんは体調を崩したので、あまり無理せず、出来るだけ長く一緒に続けていきたい」。悦男さんは、「高品質のしいたけ作りに取り組んだ結果、数多くの賞を獲得することができ、個人の目標は一段落しました。これからは、後継者を育成するため、新規就農者を受け入れ、いずれは自分の施設を譲りたいと考えています」と語っていました。



商工会編

有限会社 林田食品工場

国東町田深363

創業：大正6年
従業員：6名



林田食品工場は、現社長の林田茂男さんの祖父故林田雷太さんが、大正6年に開業しました。雷太さんは、もともとは宇佐市の長洲で料亭をしていましたが、仕入れの関係で国東がたくさん獲れる魚を捌ききれないことを知り、食品工場を設立することを思い立ち、水産加工品の製造・販売を始めました。その後、父の栄吉さんの時代になると、大型食料品店の進出が始まり、カマボコなどの練り製品を製造し、食料品店に卸すことが主な仕事になっていきました。茂男さんは、大学卒業後会社勤めをしていましたが、26歳の時に後継ぐことを決意。県外の水産加工業者で1年間修業した後、平成7年に帰郷して、栄吉さんと一緒に働くようになりました。最初に行った商品の流通動向調査で、

主力商品の日常の食卓に上がるカマボコが、東国東郡内の食料品店でしか流通していないことに気がきました。そこで、販路を拡大していくため、新たな価値を加えた商品を開発する必要があると考えました。既存の商品の中で、以前から手間暇かけて作っていたハモの皮巻を基にハモ天を完成させ、その後には姫だこ天、タチウオ天など次々と新たな商品を生み出しました。その後、県内の食料品店のバイヤーへの営業を重ね、デパートや大分空港、ギフトなど販路を広げていきました。そして、平成23年に開催された「くにさきT-1グランプリ」において、姫だこ天がグランプリを獲得して一気に認知度を高め、事業を拡大していきました。

茂男さんは、「これまで国東の食材の良さを広めるために活動してきましたが、さらに多くの方に知ってもらいたいと考えています。そのために、連携の枠を市内から県内に広げていき、もっと多くの業者と一緒に仕事をしたい。新しい商品を開発するための力を入れていきます」と語っていました。

